細矢昌武　ほそやまさたけ

一九三七年生れ。山形大學卒。高校教諭。日本近代文學會々員。「田川地區高校國語教育研究協議會々誌」17・18・19・20・24号に夫々「いなぶねノート」(1)(2)(3)(4)(5)

ノート(1)・田澤稲舟關係系圖、いなぶね著作年譜、いなぶね關係資料。(2)・田澤稲舟年譜。(3)・田澤稲舟雜記帳。(4)・田澤稲舟文學論資料。(5)・依田學海「三才女傳」

現住所／〒九九七　鶴岡市鳥居町九番一二号

田澤稲舟全集　全

一九八八年二月二十五日　初版第一刷発行

定価　八、〇〇〇円

著者　田澤稲舟

校訂編者　細矢昌武

発行者　田村茂廣

発行所　株式会社東北出版企画

〒九九七　山形県鶴岡市城南町三の十四

電話　〇二三五（23）九一一二

郵便振替番号　山形　六―七三五五

印刷／三盛館株式会社

製本／渋谷文泉閣株式会社

*Printed in JAPAN © 1988*

# 田澤稻舟全集

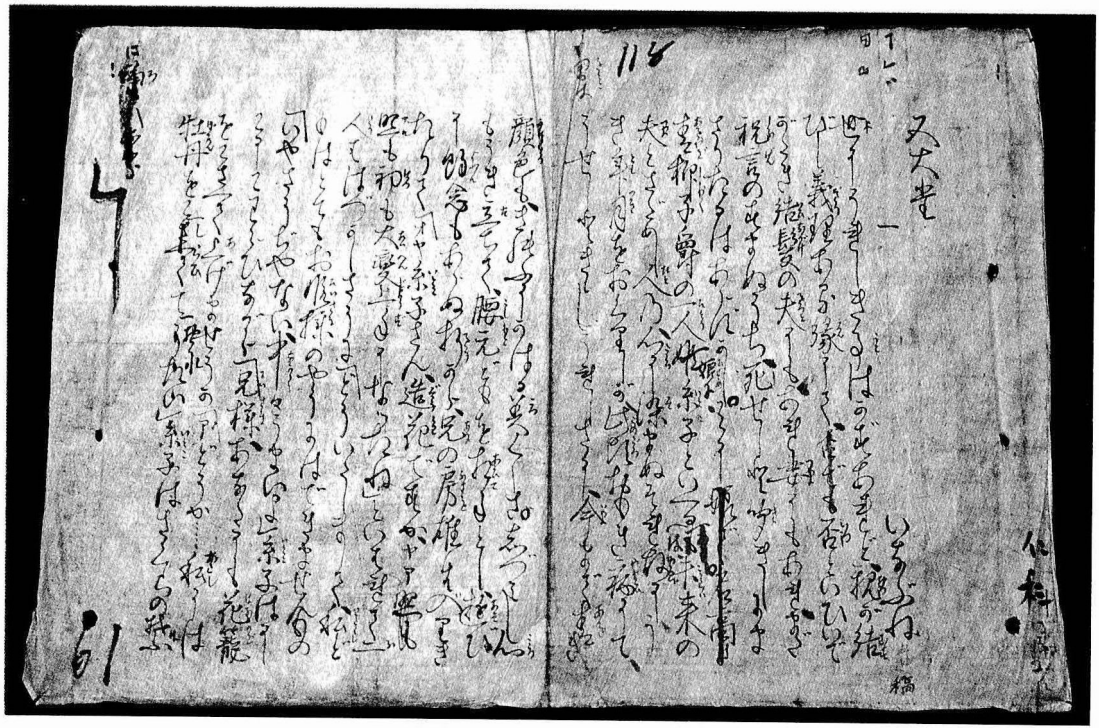
田澤稻舟著

細矢昌武校訂

江苏工业学院图书馆
藏书章

東北出版企画刊

此の書を稲舟・田澤錦子の墓前に捧ぐ

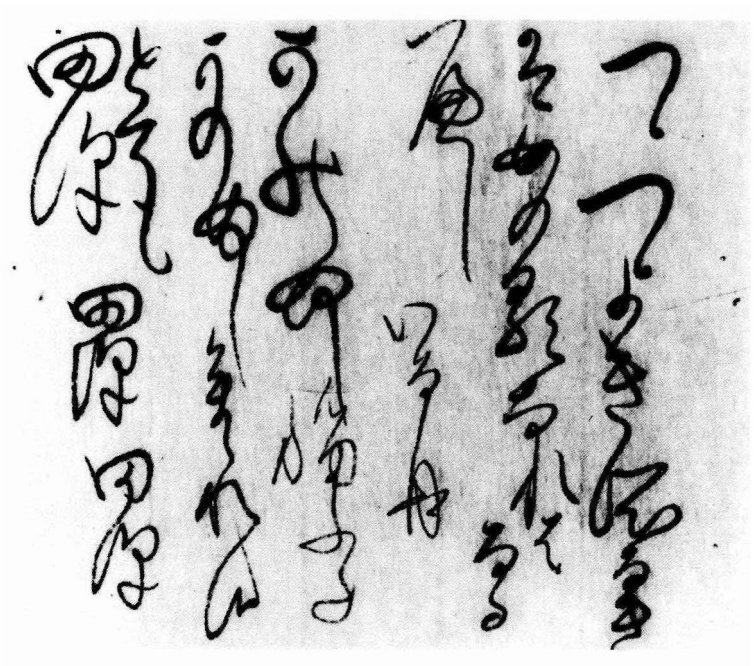


田澤稲舟自筆「五大堂」の原稿（東京都　塩田良平家所蔵）

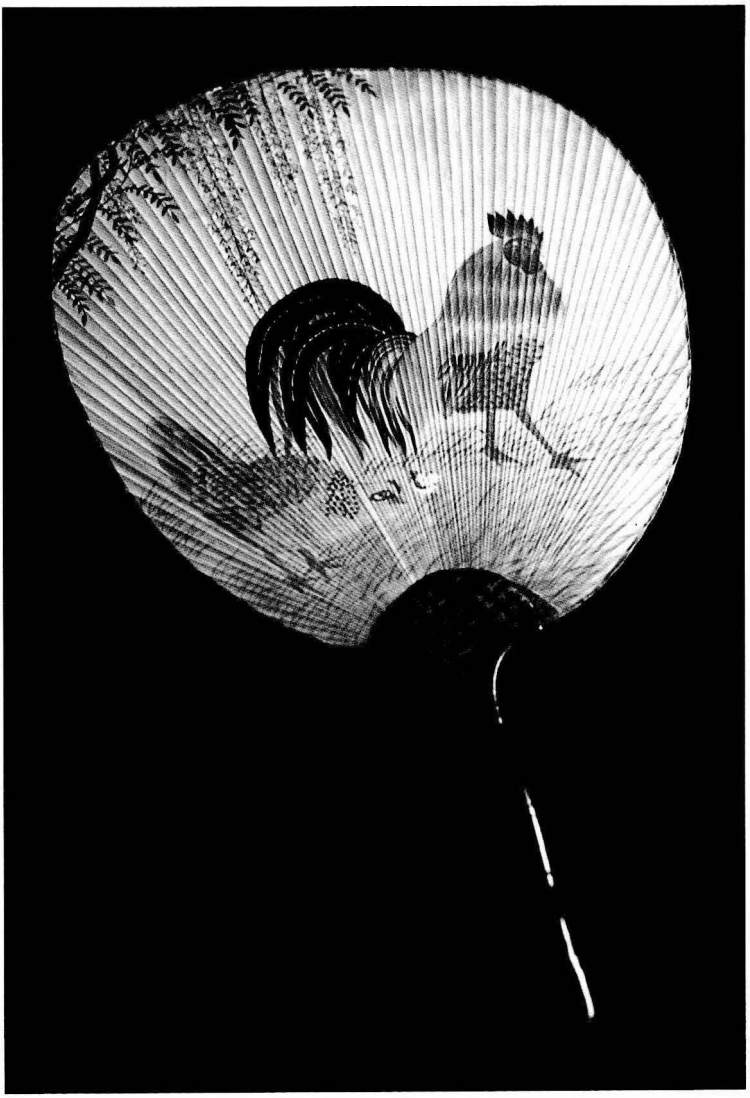
此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

田澤稲舟肖像（神奈川県横須賀市　田澤道子氏所蔵）

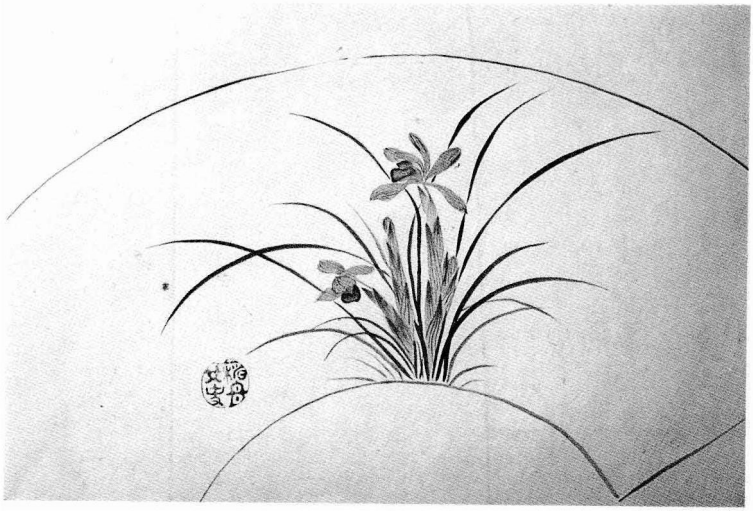
少女時代の田澤錦子（稲舟、前列左）と妹の富（前列中央。田澤道子氏の母）。
他は錦子の友人たちと思われる。（鶴岡市　平田貢氏所蔵）



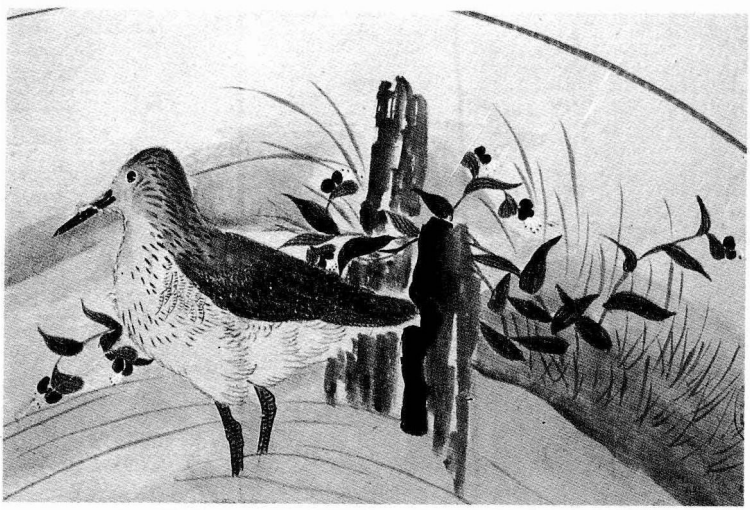
樋口一葉と稲舟の交流を示す一葉の書込み。(一葉歌稿雑記「うたかた」28年夏ごろか。筑摩書房『一葉全集』第三巻下)



田澤稲舟の絵画作品（神奈川県横須賀市　浜野綾子氏所蔵）



田澤稲舟の絵画作品（神奈川県横須賀市　浜野綾子氏所蔵）



田澤稲舟の絵画作品（神奈川県横須賀市　浜野綾子氏所蔵）

田澤稲舟の絵画作品（神奈川県横須賀市　浜野綾子氏所蔵）

田澤稲舟の絵画作品（神奈川県横須賀市　浜野綾子氏所蔵）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

不気味なドクロ図「あさましき　ほねをつつめる　皮ひとへ　まよふ　こころぞおろかなりける」とある。(前頁に同じ)

# 『田澤稻舟全集』の發刊によせて

笹原儀三郎

この度、高校の教諭をしてをられる細矢昌武氏が『田澤稻舟全集』を發刊されることになりました。細矢氏の「いなぶね」の御研究はすでに久しい年月にわたって居ります。氏は「いなぶね」の發表した小説、淨瑠璃、短歌、その他……などあらゆる部門にわたって、それらを掲載した諸雜誌を調査されました。これは實におどろくべき努力でありました。

たとへば駒場の近代文學館、あるひは東大の圖書館の地下室の明治文學に關する當時の諸雜誌を、詳細に調査研究しました。また明治女學校（當時は麴町六番町にあった）の明治二十三年發

行の女學雜誌（これについては例の中村屋の相馬黒光女史が『默移』の中に詳細にかいて居りますが―）、その雜誌の中に「田澤いなぶねが英語の家庭教師を求む」といふ廣告記事を出してゐることを細矢氏が發見されたのであります。從來、工藤恆治先生（樗牛、いなぶね、の研究の第一人者）や私などは「いなぶね」の上京は明治二十四年の春ごろと推定してゐましたが、細矢氏の上記の發見によって彼女は明治二十三年にはすでに上京してゐたことが、これで判明されたことになりました。

又、細矢氏は「いなぶね」の妹、「田澤とみ」（この女性も又、いなぶねと同樣、當時の文學少女であり、鶴岡で當時發行された諸雜誌などにこの姉妹が和歌を隨所に發表してゐるのでありますが）は非常に美人であり、その禮裝の全身寫眞など實は姉の「いなぶね」の寫眞として代用されてゐたことなども發見されたのであります。といふことは、この妹「とみ」の娘さんであられる「道子さん」といふ女性が、今も横須賀市に健在であられ、細矢氏が親しくお訪ねされて、「いなぶね」について直接に色々と話を聞かれ、その所藏する「いなぶね」關係の書類、あるひは殘されたもの等を詳細に研究された結果でありました。これは實に貴重なことで、他の「いなぶね研究者」のかつてなし得なかったことと思ひます。

細矢氏の御研究と、その發表は、前人未踏の世界を獨歩なされたものであり、私らは氏の發

表記事、ならびにその編集する『田澤稲舟全集』に心から期待を抱ゐているものであります。

一九八六年三月二十五日記

# 序

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com